

# 学級担任のまなざし 18

Okayama Prefectural Education Center

R2.7. 1[Wed]

## 「先輩の教室の窓を開けてみよう」

教員生活にも少しずつ慣れてきたある教員が、学年主任と話をしていました。「隣の1組の先生には、とってもお世話になっています。」「よかったね。出会って大切だよね。」「でも、私は先生のお役に立てることがなかなかなくて…。」「それなら朝、自分の教室に行った時に、1組の教室の窓も開けてあげるといいよ。」「それなら私にもできそうです。」

次の日から、自分の教室の窓を開けるついでに1組の教室の窓を開けることにしました。最初は、ただ窓を開けるだけでしたが、しばらく続けるうちに、教室の中のいろいろなことに気が付くようになりました。

例えば、教師机の上はきれいに整頓されて、作業や丸つけなどが広いスペースでできるようになっています。黒板には、ときに子どもたちを認め、ほめる温かいメッセージが書かれています。そして、朝の活動ですることの準備と指示ができています。また、掲示されている図工の作品は、構図や彩色などの指導が行き届いています。同じものを描いているはずなのに、自分の教室の作品とはずいぶん違います。

「放課後に絵の指導についてもう一度尋ねてみよう。」そう思ったとき、窓を開けるようにとアドバイスをしてくれた理由が分かりました。

それ以来、学校の中にもたくさん学ぶチャンスがあることに気付いたその教員は、周りの教員のよいところを見つけては真似をしてみるようにしています。時には自分には合わないなと思うこともあります。いろいろな試してみることに楽しさを感じるようになっていきます。